

## 登山道等の調査結果のとりまとめ（概要）

現況調査の結果として、荒廃状況、歩道の整備状況、管理状況、利用環境について、前回調査との変化状況を一覧表及び図（別紙参照）にとりまとめた。図に示した地点は、現地調査時に GPS により取得した座標であり、荒廃区間の始点又は終点、荒廃がひどい箇所である。

### 1. 荒廃状況・歩道施設等の状況

#### （1）荒廃レベルの設定

##### 《荒廃のレベル分け》

- ①重度：幅3m以上（侵食または流出土砂による植生損失を伴う）  
深さ1m以上（局所的な深掘れは除く）
- ②中度：幅2～3m程度（侵食なしの拡幅・人為要因による路肩崩落を含む）  
深さ0.6～1m（局所的な深掘れを含む）
- ③軽度：幅2m未満（自然要因による小規模な路肩崩落を含む）  
深さ0.2～0.6m
- ④重度のぬかるみ・水溜り：周辺植生に影響が生じている箇所
- ⑤野営の痕跡：野営指定地以外で野営の痕跡がある箇所

##### 《荒廃レベル設定の考え方》

- ①重度：幅3m以上（侵食または流出土砂による植生損失を伴う）

深さ1m以上（局所的な深掘れは除く）

※現地調査をとおして、侵食の進行が著しく、早急に対策が必要と考えられた荒廃箇所の拡幅幅及び深さを参考に設定。



拡幅幅3m（侵食を伴う）



深さ1m以上の侵食

②中度：幅2～3m程度（侵食なしの拡幅・人為要因による路肩崩落を含む）

深さ0.6～1m（局所的な深掘れを含む）

※現地調査より、今後、重度の荒廃に進行する恐れがあり、対策が必要と考えられた拡幅幅及び深さを参考に設定。0.6m以上の段差部では、段差を避けて歩くため拡幅する。



拡幅幅2.5mの侵食箇所



深さ0.6mの侵食箇所（木根の段差部）

③軽度：幅2m未満（自然要因による小規模な路肩崩落を含む）

深さ0.2～0.6m

※現地調査より急激に侵食が進行する恐れがないと考えられる侵食幅及び深さを参考に設定



幅2m程度の拡幅箇所（軽い侵食を伴う）



深さ0.5mの侵食箇所（水路化）

④重度のぬかるみ・水溜り：周辺植生に影響が生じている箇所

※ぬかるみや水溜りが極めてひどく、周辺植生に踏み跡が見られる箇所



## (2) 荒廃状況

調査結果より、急速に侵食が進み荒廃が著しい区間として、以下の9箇所があげられる。

### 《荒廃の進行が著しい箇所》

- ①赤石川付近～北海岳付近
- ②裏旭野営指定地付近～旭岳ピーク付近
- ③中岳温泉付近～間宮岳付近
- ④北海岳付近～白雲岳避難小屋付近
- ⑤ヒサゴ沼付近
- ⑥トムラウシ山付近～南沼付近
- ⑦小化雲岳付近
- ⑧沼ノ原北東側急勾配区間
- ⑨富良野岳ピーク東側

近年、荒廃が急速に進んだ要因として、**集中豪雨が頻発**したことが考えられる。これは、重度の荒廃箇所が増えたこと、沼ノ原下部の急勾配部のように、林道の通行止めにより入山者が激減した区間においても荒廃が進行したことから推測される。

侵食が一定レベル以上に達すると、荒廃が急速に進行することが多く、今回の調査で重度又は中度の荒廃とした箇所については、今後注意が必要である。

また、利用の集中時期に雪渓が残る区間（雪田草地等）、表流水が登山道に集中する区間等では、侵食の進行に伴い流出した土砂による植生損失が拡大した箇所が見られる。



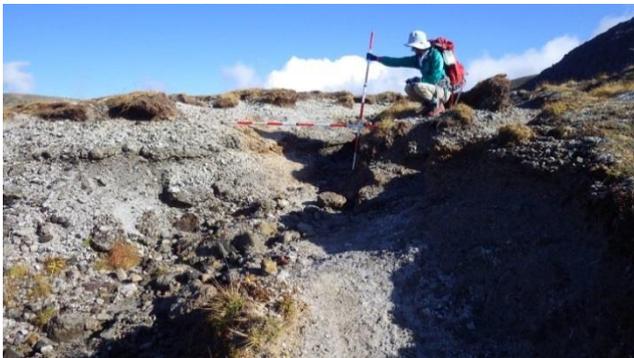
①赤石川付近～北海岳付近



②裏旭野営指定地付近～旭岳ピーク付近



③中岳温泉付近～間宮岳（一部整備済み箇所あり）



④北海岳付近～白雲岳避難小屋付近



⑤ヒサゴ沼付近



⑥トムラウシ山付近～南沼付近



⑦小化雲岳付近



⑧沼ノ原北東側急勾配区間



⑨富良野岳ピーク東側

## 2. 歩道施設等の状況

木道、階段及び石組等の整備箇所では、概ね土砂の安定や植生回復が認められた。一方、荒廃程度が重度の箇所では、破損している木道や階段が多数見られた。特に、高層湿原に敷設された木道は、水流がある箇所や水位が高い箇所で腐食や破損が著しく、通行が危険な状態のものも見られた。整備後の維持管理も考慮した対策手法を、整備技術指針の見直しにおいて検討することが望ましい。



水流部に設置され腐食が著しい木道（裾合平） 洗掘により破損した階段（富良野岳肩分岐付近）

## 3. 維持管理状況（ヤブ化・倒木等）

前回調査時と比べて、刈り払い等の管理が手薄になっている路線が増えている。その大半が管理者不在の区間、または林道や歩道の通行止め区間であるが、保護・利用体験ランクCの路線も含まれていた。ヤブ化により所要時間は大幅に増え、道迷いの恐れもあるため、保護・利用体験ランクCの路線については、管理水準見直しについて検討することが望ましい。



ヤブ化した西ヌブカウシヌプリの歩道（C・Ⅲ） ルート不明瞭なトムラウシ温泉周回路（C・Ⅲ）  
※この区間は、現在通行止め

#### 4. 避難小屋・野営指定地等の状況

大雪山国立公園内にある避難小屋 8（9）箇所、野営指定地 12 箇所および野営指定地以外のテント場 2 箇所の状況を調査した。

##### （1）避難小屋

全体的に老朽化が進行し、一部の避難小屋については雨漏りが発生し、使用に支障が出ている。また、避難小屋周辺ルートの手荒廃も進行している。

表 1 各避難小屋の状況

No.	名称	収容可能人数	トイレの有無	状況
1	姿見の池避難小屋	20	携帯 TB	非常時以外の宿泊は禁止。 小屋の状態は良好。H12 年度建築。
2	黒岳石室	150	有り	6月下旬～9月下旬まで管理人が常駐。定期的な維持管理が行われているが、老朽化が進行。 H15 年度公衆トイレの新築。
3	白雲岳避難小屋	50	有り	6月下旬～9月まで管理人が常駐。定期的な維持管理が行われているため、小屋の状態は比較的良好。
4	忠別岳南避難小屋	40	有り	老朽化が著しい。特に降雨時は雨漏りがひどく、利用が困難な状況になる。
5	ヒサゴ沼避難小屋	40	有り	避難小屋、トイレ共に老朽化が進行。 雨漏りあり。
6	美瑛富士避難小屋	25	無し	雨漏り等の損傷はなく、使用には特に問題ない。
7	十勝岳避難小屋	20	無し	小屋の状態は良好。 H20 年度（2008）建設。
8	上ホロカメットク 避難小屋	30	有り	雨漏りなどの損傷は確認されないが、避難小屋、トイレ共に老朽化が進行。
9	ヌプントムラウシ 避難小屋	30	有り	※林道閉鎖のため、今回は調査実施せず。



1.姿見の池避難小屋（今回調査時）



避難小屋の内部（今回調査時）



2.黒岳石室（前回調査時）



今回調査時



3.白雲岳避難小屋（前回調査時）



今回調査時



4.忠別岳南避難小屋（今回調査時）



内部の雨漏りの状況（今回調査時）

各避難小屋の状況



5.ヒサゴ沼避難小屋（今回調査時）



避難小屋内部（今回調査時）



6.美瑛富士避難小屋（今回調査時）



避難小屋内部（今回調査時）



7.十勝岳避難小屋（今回調査時）



避難小屋内部（今回調査時）



8.上ホロカメットク避難小屋内部  
（前回調査時）



今回調査時

各避難小屋の状況

## (2) 野営指定地

一部の指定地を除き、野営地及び周辺登山道の荒廃が進行している。

表 2 各野営指定地の状況

No.	名称	収容能力	トイレの有無	状況
1	裏旭野営指定地		無し	野営指定地では土砂が流出している状況が認められた。風が強いため石積が多数つくられており、石を移動させたことも侵食進行の引き金になっているとみられる。トイレ道は多数あるが、紙等は認められなかった。
2	黒岳石室野営指定地	20張	有り	表土流失により、平らな場所が少なくなっている。
3	白雲岳野営指定地	80張	有り	新たな裸地の拡大等は確認されず。植生が一部回復して、テントサイトの面積が縮小。周辺は植生回復対策を実施。
4	忠別岳野営指定地	15張	有り	土砂の流出等は、比較的少ないとみられる。比較的小さな平場が、数か所に分かれている。
5	ヒサゴ沼野営指定地		有り	広い平場とテント数張り分の小さな平場が数か所存在する。利用のピーク時にはテント場が足りない状況になる。
6	南沼野営指定地		携帯TB	テント場の侵食が進行しつつある。前回調査時にはなかった、携帯トイレブースが設置される。その影響もあってか、トイレ痕跡はほとんど確認されなかった。
7	沼ノ原大沼野営指定地		無し	大沼の水位が高いときは利用できない。五色の水場や沼ノ原入口付近に野営の痕跡が認められた。
8	双子池野営指定地		無し	侵食および裸地化が著しく進行、テントを張るのに適した場所が少なくなっている。野営指定地から少し離れた池の傍にもテント場ができています。また、野営周辺の登山道の荒廃も進行。
9	美瑛富士野営指定地		無し	テント場の目立った拡大はなかったものの、地面及び周辺登山道の荒廃が進行している。また、トイレ施設がないため、トイレ場が点在する可能性あり。
10	上ホロカメットク野営指定地		有り	野営指定地は段状になっており、比較的土砂は安定しているものの、周辺植生への影響は生じている。水場に比較的近い平坦部に野営の痕跡が認められた。
11	ブヨ沼野営指定地		無し	野営指定地周辺の植生が回復して、既存のテントサイト面積は若干縮小。新たな裸地は確認されず。トイレ場は植生が繁茂して不明。
12	小天狗のコル		無し	新たな裸地の拡大は確認されなかった。降雨時は水のとおり道になる。野営指定地の標識も確認できず、あまり利用されていない様子。

	
<p>1. 裏旭野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>
	
<p>2. 黒岳石室野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>
	
<p>3. 白雲岳野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>
	
<p>4. 忠別岳野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>

各野営指定地の状況

	
<p>5.ヒサゴ沼野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>
	
<p>6.南沼野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>
	
<p>7.沼ノ原大沼キャンプ指定地（今回調査時）</p>	
	
<p>8.双子池野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>

各野営指定地の状況

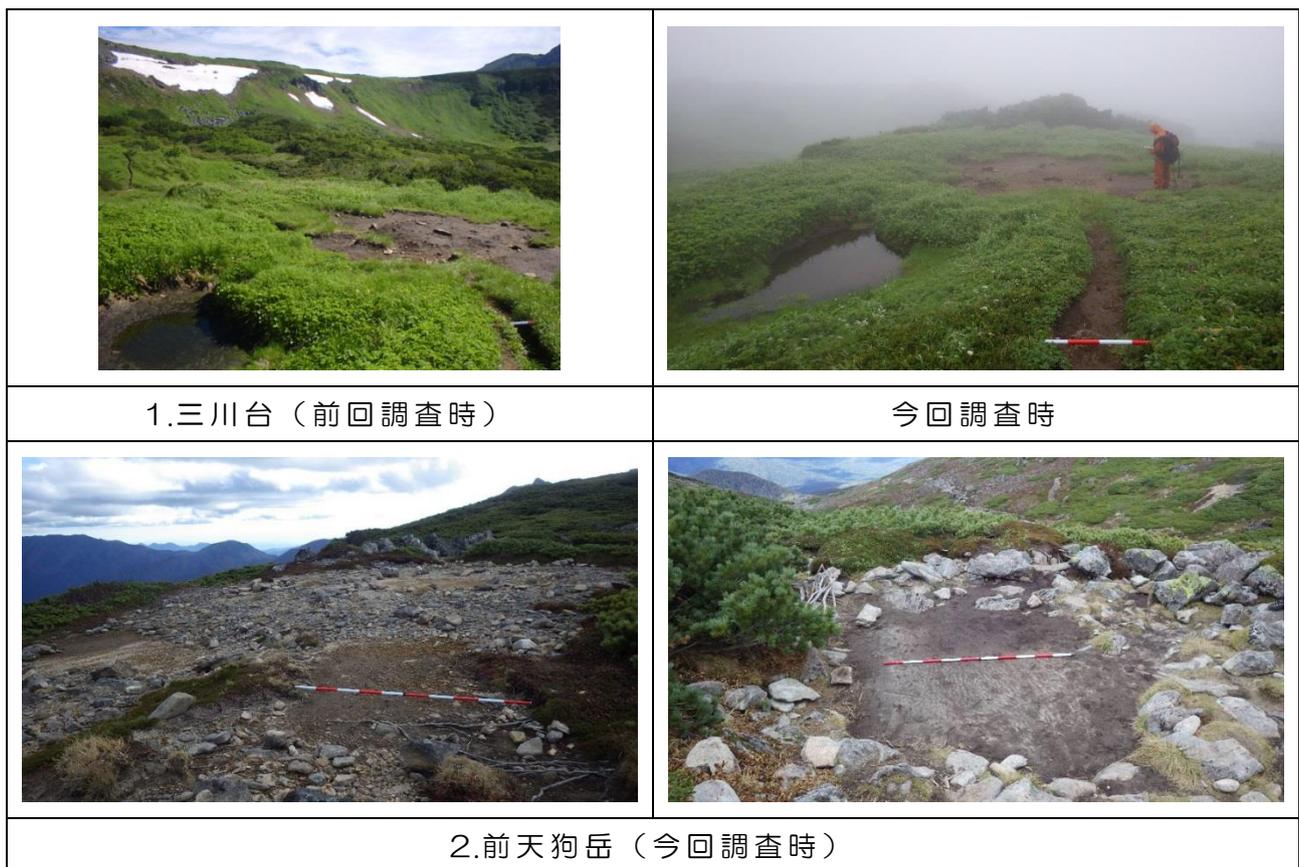
	
<p>9.美瑛富士野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>
	
<p>10.上ホロカメットク野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>
	
<p>11.ブヨ沼野営指定地（前回調査時）</p>	<p>今回調査時</p>
	
<p>12.小天狗のコル野営指定地（今回調査時）</p>	

各野営指定地の状況

(3) 野営指定地以外のテント場

表3 野営指定地以外のテント場の状況

No.	名称	収容能力	トイレの有無	状況
1	三川台		無し	前回調査と比較して、荒廃・裸地化はそれほど進行していない様子であったが、道がしっかりとついているため、利用が常態化していると考えられる。付近に水場あり。
2	前天狗岳		携帯TB	テント場として、小天狗のコル野営指定地より利用されることが多いと考えられる。付近に水場は無し。トイレブースが設置されているが、付近にトイレ場もあり。



各テント場の状況

#### 課題の整理

- ・ 避難小屋の老朽化により、計画通りの人員を収容できなくなりつつある。結果として、野営指定地に宿泊する利用者が増加し、野営指定地への負荷が高まる。
- ・ 野営指定地周辺の荒廃が進行している。
- ・ 野営指定地の整備方法の検討（技術指針に入っていない）
- ・ 野営指定地以外のテント場の扱いについて
- ・ トイレが整備されていない場所では、トイレ場が散見される。